

## 東日本大震災・原子力災害伝承館の運営に関する有識者懇談会 議事概要

日 時 令和6年5月23日(木) 13:00～15:30

場 所 東日本大震災・原子力災害伝承館  
浅野燃糸株式会社社会議室

### 出席者

| 所属・役職                    | 氏名    |      |
|--------------------------|-------|------|
| 福島大学 共生システム理工学類 客員教授     | 小沢 喜仁 | 出席   |
| 福島大学 共生システム理工学類 教授       | 川崎 興太 | 出席   |
| 福島大学 教育推進機構 准教授          | 前川 直哉 | 出席   |
| 双葉町長                     | 伊澤 史朗 | 出席   |
| NPO法人富岡町 3.11 を語る会 代表    | 青木 淑子 | 出席   |
| 福島県教育委員会 教育次長            | 箱崎 兼一 | 出席   |
| 公益財団法人福島県観光物産交流協会 理事長    | 守岡 文浩 | 代理出席 |
| (代理出席) ホープツーリズム・教育旅行推進部長 | 渡辺 政和 |      |
| 福島民報社 常務取締役郡山本社代表        | 鞍田 炎  | 出席   |
| 福島民友新聞社 取締役郡山総支社長        | 小野 広司 | 出席   |

### 事務局

東日本大震災・原子力災害伝承館 館長 高村 昇  
副館長 清水 一郎  
企画事業部長 佐藤 伸司

### 議題

- (1) 調査・研究専門部会実施報告  
(川崎委員(調査・研究専門部会長)から別紙資料1に基づき報告)
- (2) 令和5年度の運営及び活動実績  
(事務局から)
- (3) 前回懇談会でのご意見への対応
- (4) 来館者アンケート回答概要
- (5) 令和6年度の主な事業概要
- (6) 意見交換

### 資料

1. 有識者懇談会の開催趣旨及び調査・研究専門部会について
2. 東日本大震災・原子力災害伝承館 令和5年度事業実績

3. 令和4年度有識者懇談会でのご意見と対応状況
4. 一般来館者アンケート回答概要
5. 令和6年度事業計画の概要

#### 有識者懇談会内容

- 1 館内視察（昨年度の展示入替等）  
（展示エリアの新設、更新部分を学芸員が説明。浅野燃糸株式会社会議室へ移動）
- 2 館長挨拶（以下4「議事」に記載）
- 3 委員自己紹介（以下4「議事」に記載）

#### 4 議事

（高村館長挨拶）

これまで、来館者は28万人を超えており、昨年度は年間で9万人を超えた。

今年度の目標は、これを維持していくこと。

伝承館はホープツーリズムの中核施設として、地域や関係団体と連携しながら進めていく。また、初の試みとして、今年度はフランスでの海外展示を予定している。インバウンドにも注力していく。

本日は、館の運営について、委員の皆さんの意見を伺いながら、反映してまいりたい。

（事務局）

委員の皆様から自己紹介をお願いします。

（小沢委員）

私は、伝承館を作るところから携わっている。

昨日と本日も富岡町に復興計画関係で行ってきたところ。

足の不便さはあるが、賑わってきている。いろいろな形で双葉8町村が注目されているということプラスの方向に受け止め、伝承の問題についても語っていききたい。

（前川委員）

福島大学の教員です。大学では被災地域のフィールドワーク授業を担当し、また高校生とともに活動をしています。

（青木委員）

伝承館が生まれるところからお付き合いさせていただいている。

先ほど大型スクリーンに字幕がついたのを見た。

これは、私が積極的に進めている聴覚障害を持つ方からの意見を反映してくれたもの。

うれしく思いました。

展示だけではない、生の声が原子力災害を伝えていくものと信じている。

生涯学習課の下で 2 年前に県内の語り部活動をしている団体の語り部ネットワーク会議を作ることができた。県の主導でこういったきちんとしたネットワークができているのは福島県だけ。

(観光物産協会：渡辺氏 (守岡委員の代理出席))

ホープツーリズム、教育旅行などの誘客を進めている。

人材研修での利用などの誘客活動をしなが、地域の方と連携してフィールドワークなど進めていきたい。

(小野委員)

昨年夏の異動で、編集を離れ郡山の現場から違った角度で見ている。

先ほど伝承館に高校生がすごい数入っているのを拝見して、あの世代にアピールするとすれば、うちもそろそろ若い感覚の委員を出してもいいかなと思ったりした。

(鞍田委員)

2 年前までいわきにおり相双地方を北に見ていた。今は郡山からで西から見ている、ここで発見があった。気持ち的にも時間距離的にも相双地方は遠い。郡山の方はほとんど興味がないのが実情。前川先生の風化に関する調査でも示されていた。

※注 (2023 年 11 月：福島大生調査 原発・震災に関する知識、年々減少、風化確実に進行)

伝承館ができた時から「論説」などに書いたが、福島県の児童生徒は義務として一度はこちらに来る、というようなことをしないとだめだと申し上げていた。ますますその意を強くしている。

途中川内村でそばを食べてこちらにきたが、3 時間はかからなかった。素晴らしい道ができているが、車はほとんど走っていない。東西の道が抜けてきている。中通り、会津の方もいろんな道を通して、阿武隈高地のすばらしさを感じてもらえるのでは。おもしろい文化や見せられるものがあるが光が当てられていないので、そういった観点も結び付け相双地方にどうやって送客していくかを考える必要がある。

(箱崎委員)

震災の記憶・教訓の継承について、県教育委員会としても重く受け止めており、高校生語り部事業などに取り組んでいるところである。伝承館の皆さんには大変お世話になっている。今日は勉強しながら今後につなげていきたい。

(伊澤委員)

令和4年8月30日、双葉町は震災から11年5か月に避難指示解除されたが解除面積は15%のみ、85%はまだ帰還困難区域ということで復興は緒に就いたばかり。伝承館ができ、来年は県が主体となっている復興祈念公園ができる、これは重要な施設となると感じている。

大自然の災害だけではなく、原子力災害という苦難の道を歩いた方がいるということを知っていただけるような施設にしていきたいと思っている。

今日後ほど申し上げたいと思っているが、プロローグシアター、西田敏行さんのナレーションで素晴らしいが、時間が短すぎるのではないか。物足りないので、もう少し肉付けできないかと開館時から思っている。

(川崎委員)

伝承館に3、4か月ぶりに来た。観光バスがずらっと並んでいる、子どもたちが伝承館に入る姿を見て、本当にうれしかった、涙が出そうになった。

一方、原子力発電所の事故に関しては、「忘却が進んでいる」というのが、国民全体の状況かと思う。

そういう中で、伝承館の役割は大切。何を伝えていくか今後ますます考えていく必要がある。

(司会：清水副館長)

資料1に沿って有識者懇談会の開催趣旨などを説明。

ここから議題に入るので、座長を小沢先生にお願いする。

(小沢座長)

暫くの間議長をつとめる。

議題の1つ目、調査研究専門部会の実施報告について川崎先生お願いします。

(川崎委員)

<資料1-2に沿って実施報告>

(小沢座長)

多くの方に参加していただき、研究が活性化しているなど感じた。

意見交換の場で、研究部門について御意見を頂戴したいと思う。

R5の実績について事務局から報告を。

(事務局)

資料2、3、4、5に沿って説明

(小沢座長)

それでは委員の皆さんから御意見をいただく。

前川委員からお願いします。

(前川委員)

資料3で、展示の事について、イノベコーナーに災害対応ロボットのMISORAを選んだ理由があれば教えてほしい。

(事務局)

空とぶクルマは福島ロボットテストフィールド(RTF)に移行。RTFなら違和感なく展示できている。

そのあとに何を展示するかとなった時、東京のベンチャーの空飛ぶクルマでなく地元南相馬の企業が作った災害対応ロボットとした。

地元の企業が新しい技術を使って、災害対応や震災からの復興を目指す第5ゾーンの流れにマッチするとの考えから展示することになった次第。

(前川委員)

MISORAは素晴らしいチョイスだと感じた。

イノベ構想やエフレイ、それらが進む中で、県民の支持、期待度はどの程度あるのかなと思う。

「科学技術と産業化が中心である点で、原発と同じではないか。結局、事故の教訓を活かしていないのではないか」。そういった疑念をお持ちの地元の方も大勢おられる。

そこで重要なのが伝承館だと思っている。イノベ構想やエフレイが進む中で、伝承館こそが核となるべき。科学技術は確かに便利であり私たちの生活に欠かせないもので、また産業化することで多くの雇用も生まれる。だがひとつ使い方を間違えると、とんでもない災厄を人々にもたらすものでもある。伝承館は、福島の経験から学び、科学技術と人類の新たな付き合い方を考える場所にすべき。そうした伝承館を核にしたイノベ構想・エフレイなら、日本・世界に発信できるし、地元の人も誇りに思える場所になるのではないか。

そういった点で今後進めていただきたいのが、第5ゾーンの強化だ。

事故から何を学んだのか、「教訓」を考えられる場をつくってほしい。もしこの件についてワーキンググループを作るなら、自分もぜひ立候補したい。「教訓」を正面から考えられる場所にしてほしい。

さらに、福島の経験を踏まえたエフレイになってほしいと願う県民の一人である。最先端の技術を持つだけに「教えよう」というスタンスになってしまいがちだろうが、エフレイも伝承館できちんと学ぶようにしてほしい。

懇談会にエフレイに入っていただくのも手かと考える。連携をしっかりとって進めていた  
だきたい。

(青木委員)

前川先生のおっしゃたことは、そうだなと思う。伝承館は、震災後の福島の現在の入口であ  
ってほしい。福島を訪れる人は伝承館から始まるくらいの立ち位置というか。

研修講演でたくさんの中学生・高校生と話をして修学旅行の日程を見せてもらおうと、ここ  
から始まる教育旅行がとても多い。それはすごく大事なことで福島をここから始めるという  
責任も感じる。語り部ネットワーク会議を通じ継承の体制をしっかりと作ることと、それをぜ  
ひこの伝承館で活かしていきたい。語り部を育てていくのだがレベルを維持しながらこの  
伝承館で話をする場を持ち続けていければと思う。2023年度をみても語り部さんはすごく  
活動をしている、これは誇るべきだと思う。

企画展を企画するのは、いつ、だれなのか教えてほしい。双葉8町村としたとき、企画展で  
取り上げられない場所があるような気がする。また、13年たって、それぞれ違いがあると  
しても、新しい街づくりをしようとしていると思うが、復興計画などの会議が重ねられてき  
ている状況で、それぞれの町が何を創りこうしたいという方向性を私は知りたい。今の町村  
(双葉郡)の状況を知りたいし、難しいかもしれないが、そのような企画は伝承館でしかで  
きないと思う。

(小沢座長)

13年前のことと被災を受けた町がどうなっているのか、そういった対比は伝承館の展示で  
も大事だと思います。

(県観光物産交流協会：渡辺氏)

全国各地の学校や旅行会社からの問い合わせが多く、こういった行程や内容がいいかと提  
案などしている。

フィールドパートナーを増やしていかなければという課題、伝承館も語り部も増やすこと  
が、受け入れ体制としても大切と思う。

外から来ていただくための努力と地元地域での体制を継続する仕組みの両方を進めていか  
ないと、と感じている。旅程も伝承館が中心になっているところがあるので、その体制をし  
っかりすることが重要だなと感じている。

(小沢座長)

ボリューム感が出てきたときに数字的にどう増やしていけるのか。伝承館として組織を増  
強するなど体制の構築が求められてくると思いました。重要なご指摘と思うので、あとで事  
務局からの意見を聞きたい。

(小野委員)

大型連休は岩手にいたので地元の伝承館に行ってきた、かなりの人があった。各県にある伝承館はそれぞれの特徴があるのでどちらがいい悪いは言えないが、岩手や宮城の伝承施設は犠牲になった方々の鎮魂の施設であり、来館者は津波の被災に対しそのような表情をしているのが印象。

福島伝承館の特徴は、原子力災害もあり、ここは被害者の怒りを伝える施設であると考えている。原子力災害によりこれだけの被害をわたしたちは抱えてきたこと、そこをどう伝えていくか、考える必要あると思って帰ってきた。

伝承館がどうなっているか、お忍びで何回か来ている。

震災をしっかりと伝えられる良い施設と思うが、原子力災害に関しては伝わりにくいことがある。そこは研究していかなければならない。

展示替えの説明をうけて、数字の修正があったとして、その数字がどういった意味を持っているのかが伝わっているのか。ベースとなる教養を若い人たちが備えているわけではないので、そこは語り部のみなさんとか、展示の中でガイドする人がいないとあれは伝わらないなと思った。

もう一つ、展示があまり変わらなかった部分で福島が内に外にどう対応しているか、その一番ベースになっている健康不安、放射線検査などを県外の同世代の方々、若い世代の人たちにしっかりと認識してもらうためにはどう発信すればよいのかな、そのことを伝承館も考えていっていただきたい。

展示替えの中で、中間貯蔵があった。2045年の県外処分に向けてなど、あの展示だけで分かるのかと疑問である。高校生でも基礎的な知識がないと分からないのではないか。これを機に、学んでみようとする展示なり機会があると、福島県の課題になっていること、それは自分たちの世代の課題あるということをもっと今日来てくれた子どもたちに知ってもらいたいという思いがあるので、展示の工夫をしてもらいたい。

併せて、現場の話を上げると、先ほど鞍田委員がおっしゃったように、郡山の人はほとんど関心がない。そういった中で、東電が原発・廃炉資料館の視察を進めている。

バスツアーで1日中を重いテーマで拘束することは難しく、伝承館は遠慮されてしまっている。

ツアー中に聞いたところ、短いコースでも長いと言われ、長いと応募者がいないという。

来てもらった時に、短い見学時間の中で何を見てもらうのか大切に、興味のあるテーマのところうまく誘導をしないと、全体的に薄っぺらい印象になってしまう。

(小沢座長)

施設の位置づけとともに、外からの視点も大切。私も1Fツアーを申し込んだが、こないだの申し込みでも見学の日が12月23日になってしまった。予約でずっと一杯とのことで、

みなさまもご認識いただきたい。

(鞍田委員)

個別的に三つ質問を。

(1) 人が語る原子力災害(資料2P7)

作成した動画はその後活用できるのか

(2) 調査研究

エフレイの調査・研究について学術的に難しい内容になっていく中で、国民に分かりやすくどのように伝えていくのか教えてほしい

(3) アンケート

伝承館に積極的に足を運んでくれるような方々との関係性を今後どのように構築していくのか、第2の語り部になりうる人々である。ファンクラブ的なものを作っていくのはどうか。

(事務局)

回答する。

(1) 企画展で制作の動画について

今後、有効な使用方法について考えていきたい。

県出身の俳優については、確認は必要になるが、基本的には承諾を得て制作しているので使っていけるものと思う。

(高村館長)

(2) 研究の成果のフィードバックについて

現在、常任研究員の研究をもとにロビーでパネル展を実施しているが、

多くの方に知っていただけるように、そういった形で還元していくことはできるかなと思う。

(事務局)

(3) アンケートについて

自由記述で今回の資料に示しているのはごく一部。

現状、アンケートに回答いただいた方とコミュニケーションをとることはしていない。

アンケートに多いのは、「時間がなかった」という声が少なからずあるので、リピーターになる方もいることは想定される。双方向にコミュニケーションが取れる方法があってもいいかと思った。

福島の特異性は、現在進行形であることであり、何か、やり方を考えていくのもありかと思う。

(鞍田委員)

こういった時こそスマートフォンや SNS はよいツールかと思う。

リピーターになってもらうことが大事。新しい情報を提供し、継続して関係性を作り、毎日のように変わっていくことを知ってもらい、理解していただき、口コミを広げていただくことが大切。

(箱崎委員)

1) 伝承館で説明される方が上手になったと思っている。

最初のころは大丈夫かなと思ったが、意欲的に情熱をこめて、語りかけるように、小ネタもはさみながら説明している。

展示についても、分かりやすく工夫・改善されていると思った。

2) 青木先生から震災学習の始まりは伝承館であるというお話があって、そうだなと思った。

私はいわきの人間だが、いわきにとって震災は 4.11 や 4.12 でもある。

震災は福島県のすべての地域に影響を及ぼした。伝承館に来ると、福島県における震災の影響の広がり認識できるといいなと思う。震災をどのようにとらえるかは難しい。ディズニーランドは完成形がなく、ずっと更新を続けているからうまくいっているのに、伝承館も絶えず更新し、震災学習のプラットフォーム的なものになればよいと思う。

先ほど風化が話題になったが、学校現場で課題として感じたのは、伝承館で学んだ子どもたちの感想が家庭や地域となかなか共有されないこと。

教員を含め大人もしっかりと震災を学んでいくこと、子どもたちと繋がっていくことが大切であり、そういう意味でも、伝承館が全ての世代において震災学習の始まりの場であることを望む。

(伊澤委員)

伝承館が始まる前から関わっていた。

伝承館はイノベ構想の一環の施設ながら、イノベ構想の中では亜流の立ち位置であった。

だからこそ逆に伝承館は光るものになったのではないか。来館者が令和 3、4、5 年と右肩上がりで増えている。関心を持たれてきたなという思いと、風化も進んできたなという実感もある。

風化を止める、改善するためには、伝承館の展示を見てもらうものをシーズンによって変えるなどが必要ではないか。例えばプロローグの西田敏行さん、展示物も交換するタイミングになってきた、となるとプロローグの映像も同じものでいいのかと。一番私が感じているのは視察に来た方々は最初は集中している、ところが集中はそんなに続かない。自ら体験した人でもなければ関心は希薄になっている。インパクトを与えるのはスタート。西田さんという福島の名優がいるわけなので映像が 5 分というのはもったいない。来館者はものすごく集中して観ているのに。5 分でなくて 10 分とか、15 分は長いかもしれないものの、そのく

らの時間があってもいいだろう。もう一回作り直しを含めて検討するのはどうか。プロローグシアターは大事にしたい。

ツーリズムの関連で、町としては、ここだけでなく、いろいろ見てもらおうとしている。街がどうなっているか、中間貯蔵施設を引き受けたこの町はどういう状況なのか、1F が隣にあり原子力発電所はどうか、そういったものをセットにしたツアーを組めないかと町では進めている。ただどうしても長いツアーになってしまう。コアな人以外、一般の方がそれだけ集中してもらうのは難しいかもしれない。しかし、重要なのは「インパクト」と「時間」だと思う。集中して見られるような時間をつくっていく。例えば、東京電力 1F の見学だとかなり待ちの状況という小沢委員のお話もあったが、そういうコアな部分を見る人たちと、バスから降りないですと廻して現場を見てもらう人たちを増やすことも一つの取組だと思う。

東京電力とも交渉しているが、一つはセキュリティの問題。見学者の増加が廃炉の進行の妨げになってしまうことはあってはならないので、邪魔しないような見学の仕方を考えましょう、ということになっている。町としての取組である。

中間貯蔵施設は、環境省でもこの取組が 2045 問題もあるのでどんどん見てもらっている。環境省がやっている事業、大熊・双葉がここになぜ中間貯蔵施設を引き受けたのか、歴史的背景もしっかりと皆さんに感じてもらうということが、理解の醸成に繋がるだろうという考えで進めている。

我々が考えているものの一端をご披露させていただいた。

(小沢座長)

伝承館を中心にした連携の仕方もあるいろいろな形でブラッシュアップしていかなければならないと改めて思いました。

(川崎委員)

抽象的になってしまうが、風化も進んでいる中で、何を伝えるのが重要。

たまたま福島県で起きた事故で、特別なこと、多くの国民にとってほとんど関係ないこととなっているのではないか。

原発事故の原因と責任はどこにあるのかの議論に密接に関係しているのではないかと思う。直接の原因は地震や津波の自然災害で「天災」である。今回の場合、「人災」としての側面も非常に大きい。直接的には東京電力、それを規制する官庁としての経産省、国にも責任があると。事故調でもこの言葉は使っている。

自分は、『文明災』という言い方ができると思っている。科学技術を基礎とした現代文明を享受している国民一人一人が引き起こした事故で、「責任災」あるということ。国民が加害者でもあるのではないかともいえる。

我々が福島原発事故をどう捉え、どう伝えるかについて、今の伝承館の展示がそういったも

のを踏まえた展示になっているか、来館者にそういったものを感じられるような展示になっているかの観点から、もしかすると今後の展示、伝承のあり方を考えなければいけない。

別の言い方をすると、福島復興の光と影、という考えがあり、イノベ構想でも産業基盤ができつつある一方、広大な区域の帰還困難区域がまだあり、2万人以上がいまなお避難している。廃炉、最終処分も明確な見通しがたっていない。

文明災という考えからすると、もしかしたら、復興の光と言われている部分が実は影なのではないか。

そういった問いかけを自分自身に向けながら、伝承のあり方、展示のあり方、考えていく事が必要なのではないかと思った。

(小沢座長)

私自身、3月に見せていただいていた、その時に思ったのは「人が語る原子力災害」の企画はとても有意義だったということ。切り方の違いとして福島の人が県外へ出た、富田さんの逃げた道筋をみているとすごくよくまとまっているし、それを彼女自身が語っていたということが大きなこと。

前川委員からは前から震災からの無理にまとめることはあまり適切でないということをおっしゃっていらしたが、「てんでんこ」の個々の取組が人に対してインパクトを与えることができる。「人が語る原子力災害」でそういうところを垣間見たと思っている。

来館者が増えることは好ましいが、多くなる人への対応のため、体制づくりも進めないといけないと思う。機構との受託関係の関連もあるかもしれないが、増員とか体制作りという側面がある。

外国人が4%ということで、県内も1%を超えた。外国人が増えていることのプラス方向には若い方への影響も考えられ、複数の言語で伝えられる仕組みを考えることは非常に重要であると思う。

様々な形でのブラッシュアップがうまい形でこれから先につながっていくと思うし、伝承の大切さということも光と影、文明災という言葉もでてきたが、科学技術がもたらすことを立ち止まって考えてもらえるような施設になっていただきたいと思う。

貴重なご意見を賜った、事務局から回答などあれば願います。

(伊澤委員、別件による退席)

(事務局)

青木委員からの企画展の決め方について

学芸員が中心となって企画展や展示物の見直しを行っている。今年度後半の企画展については、葛西常任研究員の発案で行うこととしている。いずれにせよ、内部で検討して進めて

いる。

時期としては半年前頃から、機構本部と相談をしながら進めている状況。

委員の皆さんから次の企画展をどうするかと案をいただくような場があってもいいのかもしれない。

どういったことがいいのか、参考にさせていただきたいと思っている。

懇談会も年1回ということもあり企画を出す場を設定するのがよいのか、外部の先生方の意見を聞きながらなのか、仕組みを検討したい。

渡辺部長（守岡委員代理）のご意見について

語り部34人活躍の場について、現状では、1日4回2人で語り部を行っている。

登録しても場がないということ、話す場がなくなってもモチベーションが続かないので、今は人数は大きく増やさない。しかし、60代、70代が多いため後継者や新しい語り部をどのように確保していくかは課題であると考えている。

川崎委員のご意見について

開館当初は展示に人災という表現がなく、今は国会事故調からの文言で「人災」を使っている。

ただ、人災の意味は東電と国の責任であり、来館者自身は自分とは遠いところにある災害と考えていると思う。

文明災となると文明を享受している自分自身も関係があるんだ、という広い受け止め方となり、そうであれば全体的に展示の見直しの必要があると思う。

原子力政策の意味や原子力がどのような経緯でできて、どのように利用されているのか、というようなより大きなテーマを扱うことも、福島传承施設だからこそあり得るのかと思った。

（小沢座長）

いちばん最初に传承館の構想を考えたとき、アウシュビッツを例に考えていた。誰かを悪者にして展示をするのではなく、災害の本質を永く語り継ぐということ。誰に責任があるのかとすると、本質的な話が伝わらないと思っていたし、今日のお話を伺って改めてその思いを強くした。

传承館に来て、いろいろな科学技術がもたらした功罪について改めて考えてもらう、これから先のことも一緒に考えてもらう。そうなれば传承館の位置づけは非常に高くなるのではないかと思う。

（青木委員）

企画展は内部の学芸員が決めているということで二つだけ申したい。

一つ、今年度、ビッグパレットで出張展を行うということについて、ビッグパレットは、県内最大の避難所になったところ。その点は確実に取り上げていただきたい。ここはとっても大事な場所。富岡町と川内村の 3,500 人が 5 か月を過ごした場所なので通り越さないでほしい。そこで展示をする意味をしっかりと受け止めて展示をしていただきたい。

もう一つ、原子力災害は終わっていない災害。パスポート制みたいに、随時リターン・リピートしてもらうのも大事だが、双葉地区全体で伝承していかなくてはならないことは何なのかを企画展で取り上げていただきたい。

伝統芸能もそうだが、大きなものでもう一つある。消えてしまいそうだが、ふたば地区教育構想というのがあって、これは双葉地区全体で継承していくべきもの。伝承館で是非この「ふたば地区教育構想」を取り上げていただきたいと思う。双葉郡の県立学校が全部なくなって、それは大きなこと。ふたば地区教育構想がどうして生まれたかは、原発産業と大きく関わっていて、当時、福島県は原発依存の地域と言われるこの地域、学力的には「学力地盤沈下地域」なんてとんでもない名称をいただいていた。そんな中でふたば地区教育構想でこの地を生まれ変わらせようとした、それが原発事故で全くのゼロに帰ってしまった。しかし、今、パリ五輪に富岡高校出身者が 5 人、こんな小さな地域で 5 人も行く。これはふたば地区教育構想の成果である。

原発で中断してしまったけど、人がいなくなった地域で、明るいこともあること、企画展として是非取り扱っていただきたいと思う。科学的見地も大事だが、人の暮らしや顔が見える部分を取り上げていただきたい。

(小沢座長)

議事を終了する、事務局に進行をお願いします。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございました。

(高村館長)

伝承館は 2020 年に開館した。最初の頃、必ずしも好意的な報道だけではなかった教訓を伝えていない、反省を伝えていないとか。

委員の皆様などの意見を聞きとりながら反映させていった結果、マスコミにも好意的にとらえていただくようになってきた。これが来館者増にもつながっているのだと思う。

すぐに改善できる場所もあれば、お時間をいただくこともある。

本日いただいたご意見は後日、文書に取りまとめてお返ししたいと思っている

伝承館には福島だからできる役割があると思う。

次世代や国内外に伝えていくという大きなミッションは変わらない。

伝承館をさらに前に進めていきたい。(End)